

## さとうきびにおけるバッタ・イナゴ類の防除対策について

例年梅雨明け以降は、バッタ・イナゴ類の成虫の発生が増加する時期にあたります。タイワンツチイナゴ、ヒゲマダライナゴおよびトノサマバッタは、サトウキビの葉を食害し、時折激しい被害をもたらします。局地的に発生するので、圃場および周辺雑草地等を頻繁に見回り、早期発見・防除に努めましょう。

### 1 発生状況

- (1) 南大東島の病害虫防除員からの報告によると、5月中旬にさとうきび圃場においてタイワンツチイナゴの発生が確認された。
- (2) 宮古島において5月下旬にタイワンツチイナゴの幼虫が、一部地域のさとうきび、圃場周辺のイネ科雑草、および牧草を食害しているのを観察した。さとうきび圃場における調査の結果、株あたり虫数は、1.3頭であったが、一部圃場では集団で食害していた。
- (3) 石垣島および周辺離島において5月下旬に、被害はまだ少ないもののバッタ類の幼虫の発生が確認された。

### 2 生態

- (1) タイワンツチイナゴは年1回の発生で、幼虫は5～6月に、成虫は6～8月にかけて出現する。
- (2) ヒゲマダライナゴは宮古・八重山群島に生息し、年1回の発生で、幼虫は4月下旬頃から、成虫は6～7月にかけて出現する。
- (3) トノサマバッタは年3～4世代の発生で、幼虫は3月頃から、成虫は5月頃から出現する。
- (4) 若齢幼虫は主に圃場周辺のイネ科雑草を食害し、その後さとうきび圃場を加害するケースが多いので、幼虫の発生時期をねらって防除する。
- (5) 耕うんしない草地は、バッタ類の好適な産卵場所となりやすい。

### 3 防除対策上注意すべき事項

- (1) 圃場周囲の雑草は、若齢幼虫の好適な餌となるため、雑草の除去に努める。
- (2) 幼虫期に一斉防除すると効果的であるので、常発地域においては、圃場および圃場周辺の見回りを行い、早期発見に努める。
- (3) 成虫を防除する時には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。
- (4) 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意すること。



図1 タイワンツチイナゴの幼虫(左)と成虫(右)



図2 ヒゲマダライナゴの被害(左)と成虫(右)



図3 トノサマバッタの幼虫(左)と成虫(右)

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★  
TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933  
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>